

《養生の匠》を使用した養生作業手順

初めに、1回で1日最大吹き付けができる㎡を400㎡（手ガン）とします。

この400㎡分の支柱を事前に（シーリング工事が終わる前）・（雨天でも可能）先行して取り付けを、お勧めします。

■布材について

吹付の前日、800㎡程度先に300mmのマスキテープで普段通り養生をしてください。

次に目止め・ベース吹き・玉吹きが終わったとき…塗料の付着箇所は**軍手で一度養生の匠を擦ってから**支柱用・養生の匠を取り外して次のスパンへとそのまま横移動して取り付けを先行していきます。

布材の養生テープは上塗りが完了するまで取り付けたままにして、最後にばらしてください。

外壁吹付面の最後のスパンの工事が完了したら随時外しながら綺麗に丸めて（折り畳む）籠に保管して次の現場で直ぐに使えるようにしておきます。

■現場の条件によってやむを得ず上塗りまでを吹付作業で行う場合

上塗り付着はマジックロンで少し擦ってから保管してください。途中で玉吹き完成後の軍手による擦り作業をしておくことをお勧めします。

2現場目以降から、その都度吹付トップコート塗料の付着率が高いシート1割から2割程度処分してください。

※次の現場へ持ち込んだ際違う上塗り塗料を飛散させる危険があります。目安で処分した分を3現場目から、その都度補充するようにしてください。

上記の上塗りトップコート吹付作業では、壁との距離を23cm以内で吹付をするように意識して作業すると、かなりの部分で飛散が付きにくいので養生の匠材の処分比率が大幅に下がります。

反対にシーラー塗布作業のように壁との距離を30cm～40cm以上離して吹付をすると養生の匠材の処分比率がアップし材料費の負担につながりますので**冬場は特に風による飛散が激しいので上塗り作業はローラー塗りを、**お勧めいたします。